

田山が日本選手初のWC優勝。井出も2位に 2007ITUトライアスロンワールドカップ・エイラート大会速報

古谷がランで粘って7位となる

2007年12月1日(土)、イスラエル南端のリゾート地エイラートで、今年最後となるITUワールドカップ・エイラート大会が開催された。来年に北京オリンピックを控えているため、本大会は今後を占う上で重要な大会となった。

気温25度、水温23度、晴れの天候でまずまずのコンディション。午前10時15分スタートの女子は、1周目を古谷あかね(トヨタ車体)がトップで上がってくると、井出樹里(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)も10番手以内をキープした。スイムを最初に終えたのはアナベル・ラックスフォード(オーストラリア)で古谷は3番手となった。

バイクに入ると、約20名ほどの第1集団に入ったのは古谷、井出、田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)。第2集団は上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)と大松沙央里(トヨタ車体)を含む15名ほどの集団となった。このままバイクは第2集団がスピードを上げられず、結局同じ状態でランへと移った。

ランでは、1周目途中から井出とニコラ・スピリグ(スイス)がサイド・バイ・サイドの走りを展開。最終周、最後の400mでスピリグがスパートすると井出は付くことができず、その結果、2時間2分42秒でスピリグがワールドカップ初優勝を飾った。井出も2時間3分10秒で初のワールドカップ表彰台を獲得した。3位は、ラックスフォード。



スイムをエイラートの浜を走り込むスイムスタート(男子)



田山はバイクで何度もトップを引いた)

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



田山が日本選手初のWC優勝。井出も2位に 2007ITUトライアスロンワールドカップ・エイラート大会速報

レース後井出は、「最終周の前半の坂で仕掛けようと思ったが果たせなかったのが残念」と語った。

古谷は粘って7位、上田は15位、大松は18位、田中は44位となった。

午後1時45分にスタートした男子は、エストニアのマルコ・アルベルトがスイム1周目をトップで上がると田山寛豪(チームテイケイ)が3番手に付ける。このまま田山は、スイムで好位置をキープしてバイクへと移った。

18名となった第1集団には田山がいて、積極的に前を引く。そのためか、スピードが上がり、第2集団は追いつけない状態となった。

第2集団には福井英郎(トヨタ車体)、山本良介(トヨタ車体)、杉本宏樹(チームテイケイ)が入り、第3集団には山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)、第4集団には細田雄一(ウイダー)が位置した。

ランには、バイクで積極的だった田山が最初に飛び出した。その後田山は、危なげない万全の走りで後続を徐々に引き離し、1時間49分46秒のタイムで、日本選手初となるワールドカップ優勝を勝ち取った。田山は、「練習もハードだったが、何よりメンタル面を強化したのが勝因」と、喜んだ。

2位はウラジミール・ポリカペンコ(ウクライナ)、3位はアレキサンダー・ブルカンコフ(ロシア)。日本選手は福井が31位、杉本が33位、細田が47位、山本淳一が49位、山本良介がDNFだった。



ランのほとんどは井出とスピリグのサイド・バイ・サイドだった

田山 寛豪
(チームテイケイ)



スイム・バイク・ランとも、後を考えずに積極的にいこうと思っていた。バイクでは何度か前を引いたし、ランでは誰の後ろ姿も見ないでフィニッシュすることができた。ハードトレーニングもしたが、メンタルを強化したのが勝因だったと思う。来年も、同じ結果を残したい。

井出 樹里
(トーション・日東紅茶・TEAM KEN'S)



ラン周回の最初に登りがあるので、最終周にそこで仕掛けようと思ってできなかった。その後、一度前に出ようとしたが、スピリグに付いてこられた。最後400mでスピリグがスパートしたときは反応できなかった。くやしいが、来年につながる結果が残せたと思う。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

